

市立

いちかわ

自然博物館だより

令和元年(2019年)

10-11月号

(通巻 184号)

2019年度

あたりまえの風景に
あたりまえの生き物に
あたらしいときめきがある！



自然博物館収蔵写真

ヒヨドリショウゴ

やぶやフェンスに生えるツル草です。
真っ赤に熟した実が、秋の日差しを受
けて輝きます。

- P1 ☀️ いきもの写真館
ヒヨドリショウゴ
- P2 / 3 ☀️ 明治時代の地形と土地利用
市川砂州
- P4 ☀️ いちかわの植物 30年
オミナエシ・コシオガマ

- P5 ☀️ 街かど自然探訪
南行徳・斜めの道は川だから
- ☀️ くすのきのあるバス通りから
アシナガバチの大家族
- P6 ☀️ 展示室 飼育生物の話題
人を踊らせる魚カムルチー
- P7 ☀️ わたしの観察ノート
7月～8月の記録
- P8 ☀️ 行事案内

博物館だよりはホームページでもご覧いただけます。

明治時代の地形と土地利用

市川砂州

市川砂州は、これまでの3回で取り上げた「国分台・国分谷」「曾谷台」「柏井台・大柏谷」の南側にある土地の高まりです。眺めるだけではわかりにくい地形ですが、土地利用を見ると、その存在は、はっきりとわかります。

明治時代の土地利用図

右ページの図は、1880（明治13）年の地形図に、土地利用ごとに着色をした土地利用図です。明治のころは地形と土地利用が密接に関連していたため、等高線を使って地形を探るよりも、土地利用図を見る方が直感的に地形を知ることができます。

水田があった場所

土地利用図には「田」あるいは「水田」と書かれた場所が大きく2か所あります。図中に示した①と②のところです。紙版の紙面では色の違いが判らないので、地図に書かれた文字を読み取ってください。①が真間、須和田、菅野、宮久保あたり、②が新田、平田、大和田あたりで、地図のなかに「田」「水田」という文字が見えます。須和田あたりの場所には「萱」という文字も見えます。ここで言う「萱（かや）」はヨシを示していると想像できます。①②の場所は、湿った低地であることがわかります。

梨畑があった場所

③で示した場所には「梨」の文字があります。現在の市川から八幡にかけてで、その南縁（図中、③の下縁）には千葉街道が通っています。街道沿いには、市街地も形成されています。この③で示した場所が「市川砂州」と呼ばれる場所です。縄文時代にできた砂州の地形で、①②の場所よりも数メートル盛り上がっています。また、

名前の通り、砂でできています。土の質も水の量も異なるため、③では①②のように稲作を行うことはできません。そのため、梨栽培が広がったのです。

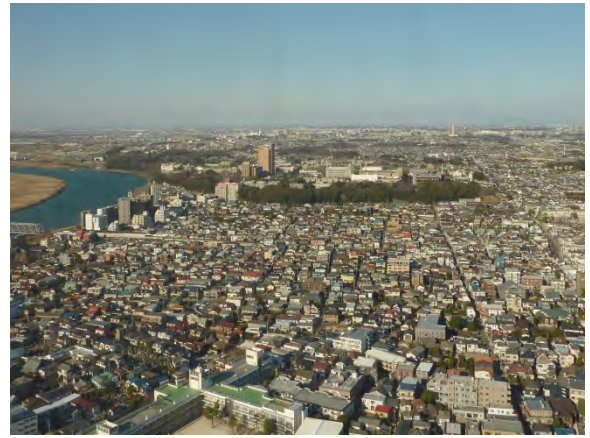
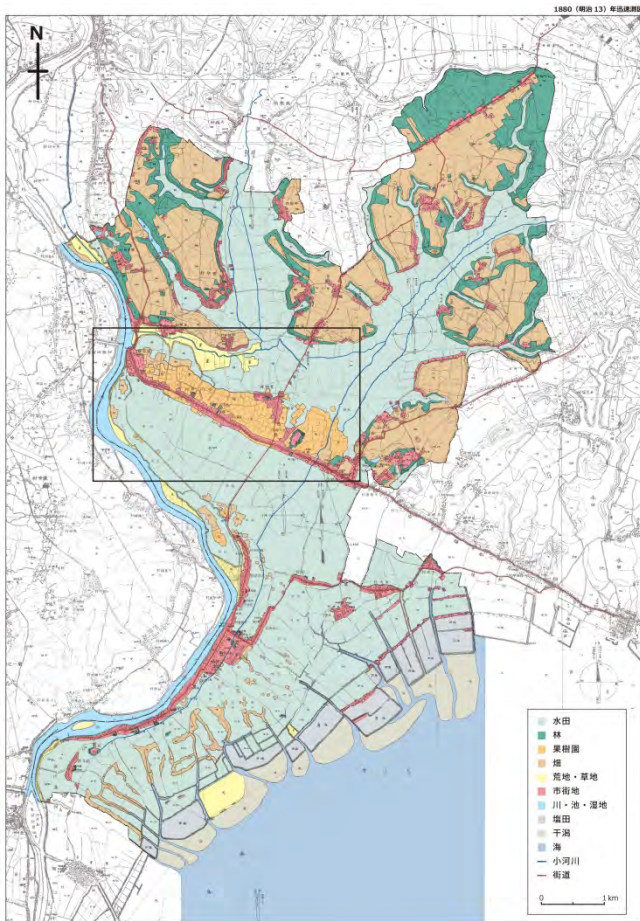
市川砂州と水の動き

①②と③は、見た目だけではひと続きの土地に見えますが、水の流れという点では異なる存在です。わずか数メートルであっても、水は低いところから高いところへは流れないからです。国分谷、大柏谷を流れてきた水は、③の市川砂州に行く手を阻まれ、西へ西へと回って江戸川へ流れ出ていきます（図中、矢印）。①を流れる川が直接②へとつながることはなく、②の水田は江戸川からの水がたよりだったようです。

①には水が滞留し、②には上流からの水が入らない状態を解消するため、市川砂州を通過する水路がいくつも掘られました。その代表が、有名な「内匠堀」（図中、A）です。

まとめ

市川市域の地形を「台地」と「低地」に二分する場合、市川砂州は低地として扱われます。ですが、縄文時代、当時の海辺に砂が堆積してできた市川砂州③は、その南北の土地①②とは、特に水という点で大きく異なっています。水田と梨畑という農業（当時の農業は自然環境に合わせるしかなかった）のみならず、どこに街道が通り町ができたのかにも影響しています。



市川砂州西端

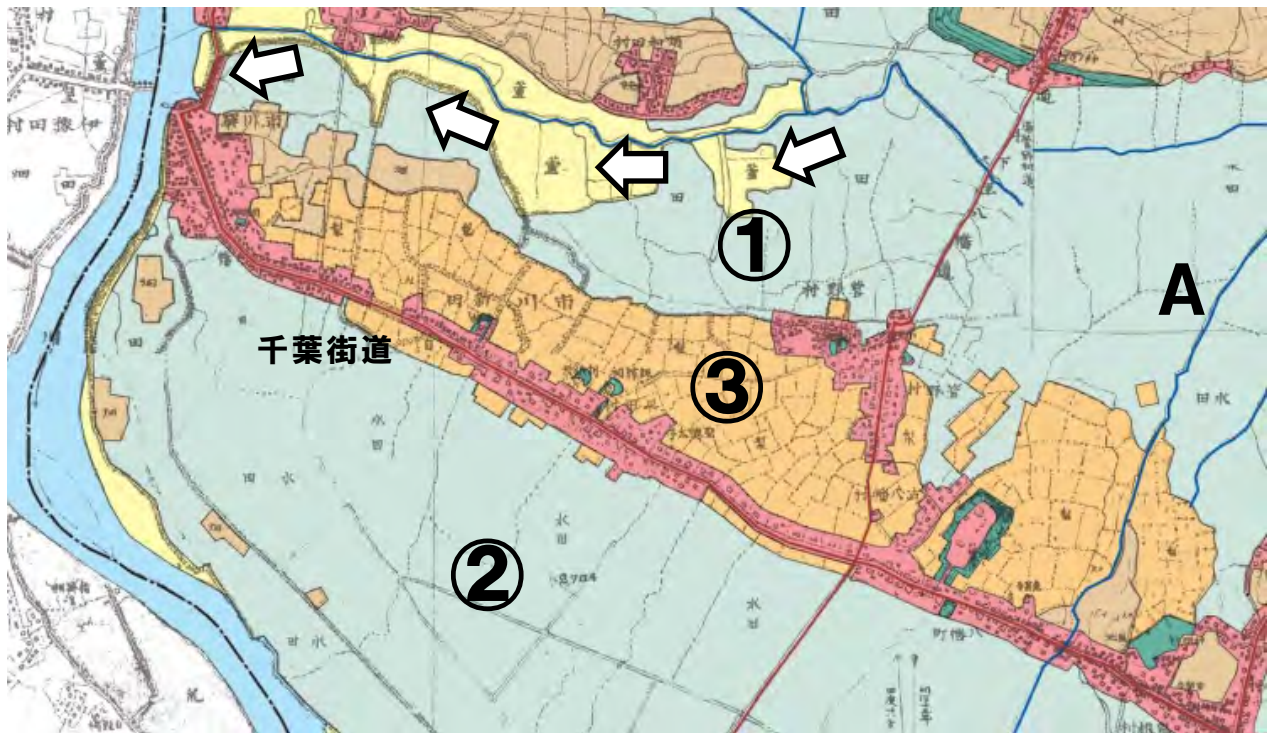
写真手前が市川砂州だが、見てもわからない

1880（明治 13）年の市川市域の土地利用図と市川砂州の範囲（四角で囲んだ場所）

「市川市史自然編 都市化と生きもの」

P47 図 2-2-3 より使用

（市域外は着色していません）



市川砂州と、その周辺

③が市川砂州。①②は水田が広がる一帯。A は内匠堀

「市川市史自然編 都市化と生きもの」P47 図 2-2-3 より一部抜粋して使用（市域外は着色していません）。

いちかわの植物 30 年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて
市川市域の植物を紹介します。

オミナエシ

黄色い花が印象的なオミナエシは、明るい草原に生える野草です。秋の七草に挙げられ、一般にもよく知られていますが、市内では栽培品をのぞくとほとんど見られなくなりました。それは、市内にあった草原の多くが市街化され、古くからある草原がほぼ壊滅したからです。

仮に新しく草原を作っても、そこには帰化植物が多く生えます。地中に種子が残っていなければ、オミナエシは生えてきません。



オミナエシ(1986 年 8 月 26 日)
柏井町 2 丁目の雑木林の林縁

コシオガマ

シオガマと名が付く野草は山地に多く（たとえばヨツバシオガマ）、市川市域のような平地ではあまり見られません。コシオガマは、いわゆるシオガマ類とはややグループが異なりますが、平地でも見ることができます。といっても、オミナエシ同様、市川市域では「幻の植物」のような存在かもしれません。

写真を撮影したのは柏井町の雑木林の林縁です。その後、北部の別の場所でも見ることがありました。



コシオガマ(1986 年 9 月 26 日)
柏井町 2 丁目の雑木林の林縁



街かど自然探訪

おじゃまします！

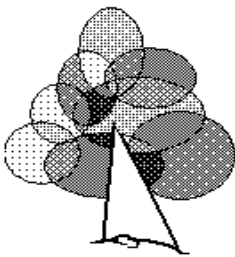
みなみ ぎょう とく

南行徳・斜めの道は川だから

写真は、南行徳と福栄の境、福栄小学校前の道路です。東西線の開通に合わせて町が拡大した行徳では多くの道が碁盤の目のように通りますが、この道路は斜めに通っています。なぜ？古い地図を見ると、この斜めの道の場所には川が描かれています。町の水を排水する流路は大切なものですから、その存在は町ができる過程でも維持されたのです。現在でも道路の下には排水路があり、雨水を流す機能は昔と変わっていません。



△福栄小学校（正面右）前の斜めの道路



くすのきのあるバス通りから No.126

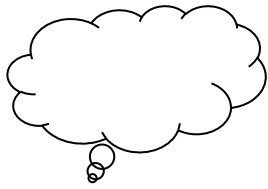
アシナガバチの大家族

「平成5年のような冷夏になる」と思われていました。7月は、日差しがなく、気温が上がらず、ネムの花はいつもの年より長く咲き、ツクツクボウシが早々に鳴き始めました。8月になると猛暑で雨が降らず、蚊も活動しない35℃以上の日が多く、花が少なかったように思います。

4月7日、一匹のアシナガバチが二階のベランダにやってきました。20日に巣を作り始めたようです。6月15日、19部屋の中に幼虫がいました。8月18日、巣は3倍くらいの大きさに。20匹くらいのハチが巣の表面にいました。

9月29日には、握りこぶしくらいの大さの巣、表面におびただしいハチ達。写真を撮ろうとすると、全員巣の陰に隠れようとし、攻撃性はありません。すぐ下の庭の木の上をヤブガラシが覆い、アゲハを始め色々な虫が来ます。孫達を連れてきた虫好きの次男が、しばらく見ていて「庭の中だけでエサが取れているね。ヤブガラシには芋虫がいるし」といっていました。「親バチは花の蜜を吸っている」と自然博の方がいっていました。人通りがある路地で、ひっそりと大家族になりました。

(M. M.)



展示室

No.28

飼育生物の話題



人を踊らせる魚 カムルチー

雷魚という名前の方が、なじみがあるかもしれません。いただいたカムルチーを飼育していますが、肉食魚だけあって活動的で、お客さんに人気があります。それは誤解の上に成り立つ人気なのですが・・・

カムルチーはザリガニが好物です。餌は毎朝、冷凍してあるザリガニをむき身にして与えます。ばくっと食べたあと、数分後には、もう餌を催促するように泳ぎますが、それ以上は与えません。なので、開館時間中はいつも空腹状態？でお客さんと向き合うことになります。水槽の底で休んでいるカムルチーは、人が近づくとにわかに泳ぎだします。それに気づいたお客さんが水槽に指を近づけると、指の前で必死に泳ぎます。まるでお客さんが雷魚を指で泳がせているみたいです。

さらにお客さんが体を左右に動かすと、カムルチーは激しく反応します。楽しそうにカムルチーを操るお客さんですが、その様子はカムルチーに操られてお客さんが体を振っているようにも見えます。それが、表題の意味です。

ちなみに、カムルチーが人に反応するのは餌をもらえと思うからです。指に反応するのは、食いつこうとしているからです。人なつこいわけではないのです。

※お客さんの写真は撮れないので、クマさん先生にモデルになってもらいました。



◆長田谷津より

- ・博物館に作られたツバメの巣から雛が巣立ちました(7/5)。大きくなった雛の重さに耐えられず巣が落ちてしまう事件もありましたが、少なくとも4羽の雛が巣立ったようでした。この日は巣の周りを飛び回っていました。
- ・湿地の草原からタヌキの鳴き声が聞こえてきました(7/15)。しばらくじっと見ていると、草が揺れタヌキが歩いているのがわかりました。最近、親子がよく見られています。

以上 稲村優一(自然博物館)

- ・おやこ自然観察会の参加者が、中央水路でこどものモクズガニを捕まえました(8/11)。東京湾とのつながりを実感できる観察になりました。

金子謙一(自然博物館)

- ・観察園の奥の方で飛んでいたヤブヤンマを捕獲して確認しました(8/16)。曇っていたため、黄昏飛翔よりも早めの時間帯で、16時頃でした。写真を撮影してから逃がしました。

藤川大輔(自然博物館)

- ・今年はスズメウリがよく茂っています(8/31)。白い花も可愛らしいですが、ハート形の葉っぱも見えていて楽しいです。

◆大町より

- ・動植物園のバスロータリーでキカラスウリ花を見つけました(7/20)。ふつうのカラスウリよりは、見る機会が少ないです。

以上 金子謙一(自然博物館)

◆真間山より

- ・南側斜面林で、にぎやかなミンミンゼミの鳴き声の中、ツクツクボウシがようやく鳴きだしました(8/8)。暑さの始まりが遅れたためか、例年よりやや遅いようです。

M. T. さん(市川在住)

◆国府台緑地より

- ・梅雨空の林内を歩くと、ニイニイゼミの音が頭上に響いていました(7/21)。木の幹に丸っこい抜け殻もありました。

◆国分川調節池緑地より

- ・調節池なので、雨が続くと水がたまりやすい場所です。かつて田んぼだった場所なので、カヤツリグサの仲間が生えていました(7/20)。ミコシガヤのほかにも、サンカクイやアオガヤツリ、ヤマイ、イガガヤツリなどが見られました。

◆中山より

- ・最近アカボシゴマダラばかり目立ちますが、この日は在来ゴマダラチョウが見つかりました(7/24)。

◆江戸川放水路より

- ・梅雨明けが遅れたせいか、7月末でもトビハゼの巣穴がたくさん見つかりました(7/30)。今年生まれの稚魚はまだ見られませんでした。

以上 金子謙一(自然博物館)

よく雨が降る梅雨で、日照不足と低温が心配されました。7月24日に梅雨明けした後は、ものすごい暑さの日が続き、降雨はほとんどありませんでした。



行事案内



長田谷津 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

毎月1回、長田谷津(大町自然観察園)の四季折々の風景を楽しめます。

- ・日 時 11月2日㊥、12月7日㊥、1月4日㊥、 午前10時～11時30分
- ・集合場所 動物園券売所前 午前10時

季節を感じる 散策会

お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

詳しくは博物館に直接おたずねください。

テーマ	日 時	集 合 場 所
クロマツのある街なみ	12月15日㊥午前10時～11時30分	京成線菅野駅改札前 午前10時

長田谷津 ボランティア

湿地の環境整備をお手伝いしていただきませんか。

(雨天中止)

- ・日 時 10月27日㊥、11月24日㊥、12月22日㊥、午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もあります。作業内容や身支度、駐車場などについてご案内いたしますので、ご面倒でもまずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けをお手伝いしていただきませんか。

(申し込み不要・雨天中止)

- ・日 時 11月3日㊥、3月8日㊥ (12～2月はお休み)
午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園 午前10時
- ・自家用車をご利用の場合は、
博物館までお電話でお問い合わせください。

第32巻 第4号 (通巻第184号)

令和元年10月1日 発行

編集・発行/市立市川自然博物館
(市川市教育委員会生涯学習部)

〒272-0801千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477